

研究開発成果の社会への還元及び人材育成

原子力機構はエネルギーに関連したものからエネルギー分野以外でも様々な役割を果たしています。ここでは私たちの活動の一部を紹介します。

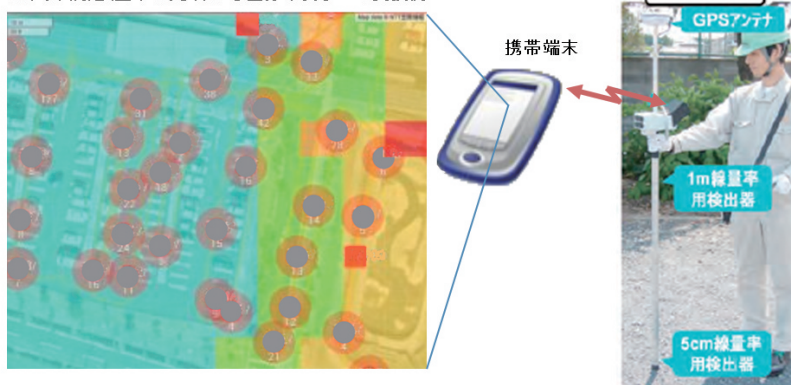
機構の技術の社会への還元

<http://sangaku.jaea.go.jp/index.html>

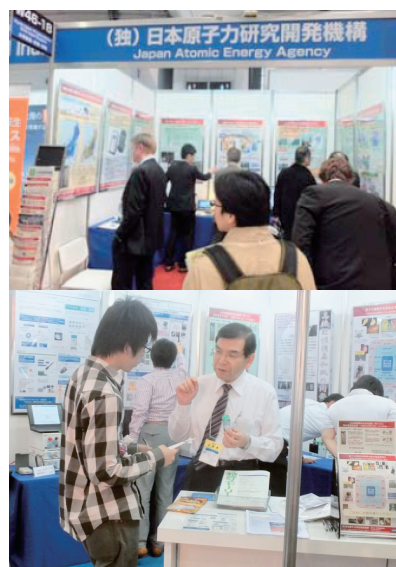
原子力機構は、研究開発成果や特許技術などを社会に役立てるため、企業との連携を図っています。2013年度は、前年度に引き続き、福島第一事故からの復旧・復興を技術面で支える取組を積極的に進めました。

民間企業との共同研究を通じて機構の特許等知的財産を利用した新製品開発を目指す「成果展開事業」では、震災対応テーマ4件及び一般対応テーマ1件の課題を実施しました。震災対応テーマ2件の開発（空間放射線のスポット計測値を面の分布マップとしてその場で携帯端末に表示するアプリケーション及び農産物栽培における放射性セシウムの移行を抑制する添加剤）について、製品化の見通しを得ることができました。これらは、福島第一事故への対応に役立つことが期待される製品開発です。また、情報発信として、各種展示会において開発成果品の紹介を実施しました。

スポット測定(図中の丸印)から面分布表示への変換例



放射線計測器（ガンマプロッター）との組み合わせによるアプリケーション利用例



展示会での紹介
(上：国際水素・燃料電池展 2013、
下：ウェルフェア 2014)

原子力分野の人材育成

<http://nutec.jaea.go.jp/index.php>

原子力人材育成センターは、原子力に関する研究者・技術者を育成するために、1958年以來長きにわたり国内研修事業を行っており、産業界、官公庁、原子力機構職員等を合わせ11万人超の研修修了生を輩出しております。

また、国内の大学教育への協力を始め、原子力発電の新規導入国の技術者育成への貢献、さらには、国内70機関の連携によって組織された原子力人材育成ネットワークの中核的機関としても活動しています。

原子力分野の人材育成は、国内外を問わず、その重要性を増してきており、当センターでは、従来の研修コースの一層の充実にとともに、国内原子力人材の国際人材養成コースの開催等、社会的ニーズを把握し、研修の質的向上や拡充等に取り組んでいます。



国際人材養成コース



空間線量率の測定実習